

meaning of this passage relates closely to “Mastery for Service.” By making the most of our God-given gifts in body, mind, and spirit, we can express our love and thanks to our creator. However, it is not only the relationship between God and ourselves that is important. Jesus was careful to remind us that our ties to others should also be based on love, the most profound motive for service. When Jesus went on to explain who are our neighbors, he told the story of the good Samaritan. Without giving the details of the story, the point Jesus made was that regardless of differences in culture, status, race, or religion, those who have compassion for others are the good neighbors.

Dr. Lambuth was a good neighbor to people in many different countries, and to people with many different points of view. I hope that we can aspire to follow in his footsteps by mastering our God-given abilities and using them to serve our neighbors.

(院長)

建学の精神

細川正義

関西学院は今年創立120周年を迎えます。その節目の年に長い歴史の中で共有してきたミッション（使命）とスクールモットーを再確認し、新しい時代にふさわしい輝きと、存在価値を持った学校として進んで行こうとしています。

そのミッション（使命）として、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共

団体」として、集うすべての者がスクールモットーである“Mastery for Service”を体現する世界市民を育むことをめざすことを確認しています。そして、“Mastery for Service”については「奉仕のための練達」と訳し、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えるという関学人のあり方を示したものであることを改めて明示しました。

関西学院の教育理念の基点である「聖書」には、私たち一人ひとりを神様が愛してくださっていることと、その神の愛において「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書 15：12）と隣人愛の大切さを教えています。関西学院は120年前に小さな群れから出発して、現在は幼稚園から大学まで擁した大変大きな集団になってきました。しかし、どんなときにも一人ひとりを掛け替えの無い存在として愛し育むのが関西学院の教育の使命であるということと、私たちが喜びと感謝をもって隣人^{となりびと}を愛する人になれるように自分たちを鍛えることを志すこと、これが「聖書」に立脚した関西学院のスクールモットーの意味だと解釈できます。隣人とは、私たちの直ぐそばにいるひとりの友であり、更に世界をまなざした人類愛につながるものであることは言うまでもありません。

今回のミッション（使命）とスクールモットーの再確認において示された言葉のひとつに「オンリーワンを育てる」学生活動支援があります。これは一番を目指するための支援ではありません。一人ひとりが自分を掛け替えのない存在であることを自覚し誇りを持つことと、隣人に対しても掛け替えの無い存在として交わることが出来る人間になることへの支援を目指したことです。自分は愛されているという確信と隣人愛の責任への自覚、関西学院に集うものたちすべてが今一度、この原点の自覚に立ち返りたいと願っています。

（副学長）